

税制調査会（第21回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成27年 9月25日（金）16時52分～

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

○記者

よろしくをお願いします。

○中里会長

本日は、お聞きのように前半に厚生労働省から社会保障施策のメニューを御紹介いただいた上で、後半に7月以降、集中的に行ってきた実像セッションの最終回として、これまでの議論を振り返るための活発なフリーディスカッションを行いました。

本日の議論を通じて幾つかの点を考えたのですが、まずこの四半世紀の間に大きな構造変化が起きていて、従来の、男性が正社員として稼ぎ手となり世帯を支える、という生活モデルがもはや必ずしも維持できないのではないかと。そのような状況になっているのではないかと。このような構造変化は、個人が抱えるリスクを高める方向に作用しているので、今後、時代に合った形でセーフティーネットを作り変える必要があるのではないかと。その際には、例えば夫婦が共に稼ぐことにより世帯の一定レベルの生活水準を確保していくといった生活モデルのようなものも考えられるという指摘も今日なされていました。また、経済成長の基盤の再構築を図るという観点から、若者への経済的支援や若者がヒューマンキャピタルを形成していくための支援を政府、企業あるいは家族等が一体となって取り組む必要があるのではないかと。この御意見の方もいらっしゃいました。

会議の場でも申し上げましたが、かなり精力的な議論を行ってきましたから、その成果については一定の整理を行いたいと思っておりますが、どのような整理の仕方が良いのかという点については、今後の個別税目の議論の状況も見ながら、改めて委員の皆様と相談しながら決めていきたいと思っております。

次回以降は個人所得課税、資産課税といった個別の税目の検討に入っていくということです。

○記者

ありがとうございました。

今日のフリーディスカッションの議論でもありましたが、やはり社会保障と税というものは切っても切れないと言いますか、そのような部分が極めて、社会保障制度の中で税制の仕組みがつまみ食いされているのではないかと。この御意見もあったかと思いますが、そのような部分を今後の議論に反映させていくといったお考えは何かないのでしょうか。

○中里会長

これは、社会保障を担当している官庁が当然ありますし、審議会等もある。一方で、

税制調査会はあくまでも税制の場であるという建前です。しかし、そのように言っても、我々がなぜ税に集中して一生懸命議論しているかと言いますと、様々な国の支出に備えるためです。その支出の中で特に重要なものとして社会保障経費があるわけですから、私たちとしても社会保障のあり方には非常に強い関心を持って議論を進めていくことになるのではないかと。そのような指摘が今日かなりの委員の方からなされました。そのような皆様の指摘を踏まえて議論を進めていきたいと思っています。最終的な局面で社会保障や税制、支出など、そのような財政全般を統合的に考えるのは、これはまた別の場所で行うことでしょうか。私たちは税制の中で社会保障の持つ意味合いを正面から捉えて、そこから決して目をそらすことなく一生懸命議論していきたいと思っています。

○記者

ありがとうございました。

今後の議論についてですが、個別の税目についての検討にこれから入っていくということですが、まとめ方はその中で決めていくということですが、大体どのぐらいの目途で、何回行ってある程度まとめていくと言いますか、その辺りの見通しをお聞かせいただけますでしょうか。

○中里会長

随分長く、今日を入れて9回の実像把握の会合を持ちました。事務局にまとめるように依頼したポイントや考え方の整理が今日出てきましたが、実にラフなものですから、それをさらに詳しいものにしていって、委員の皆様が今まで議論し尽くすことのできなかつた考え方も述べていただいとということですから、かなりインテンシブにさらに続けていかなければいけないのではないかと思います。二回や三回で済むような話ではないかと思っています。

○記者

今日の資料の中で論点例という紙がありますが、これは中里会長の論点整理という理解でよろしいのでしょうか。

○中里会長

例です。このような論点があるのではないかと例示として皆様に示して、ほかにこのような論点があればお出してくださいということを今日皆様に申し上げました。今後さらに皆様がお考えになって、論客がそろっていますから、様々なことが出てくるのではないかと。あくまでもその呼び水と言いますか、そのようなものとして例を示したということで、これが全てということではありません。

○記者

会長御自身の整理という理解ですか。

○中里会長

整理と言いますか、一つの例を示したということです。

○記者

社会保障財源の話もかなり出てきましたが、一方で所得の再配分の機能の回復という点と社会保障財源との考え方。一方で、社会保障財源に関しては消費税が社会保障4経費に充てるという位置付けになっているわけですが、この辺りはどのようにすみ分けをして議論をするのか。累進構造をもっと急にして、所得税にも社会保障財源に充てていくという考え方を持っていくということなのか。それとも、それはやはり消費税に委ねるべきものなのか。その辺りは議論が曖昧になっているという気がするのですが。

また、一方で与党の方では消費税の軽減税率の議論が進んでいるわけですが、その辺りとの整合性、また与党での議論の進め方を現状、会長の方でどのように見ていらっしゃるか伺いたいのですが。

○中里会長

所得税の今の議論を始めるに当たって、今日も増井委員の方から発言があったと思いますが、所得税としては税収中立的にということで、その中で負担構造を社会構造に合ったものに変えていくということです。社会構造に合ったものに所得税の構造を変えていくということは、少し力点の置き方を変えて、若い人たちに焦点を当て、困っていない人から困っている人に対する、再分配のようなことも考えていくということなのであろうと思います。今の段階では所得税についてはあくまでも税収中立的に考えています。社会保障財源云々といっても、お金は色がついていませんから、どの税金の税収がどのようになっているかはなかなか分かりませんが、消費税はあくまでも社会保障財源ということです。一方、所得税の方は今のまま、全体の税収はそのままということ考えていこうと思っています。そうでないと議論の收拾がつかなくなってしまうから、そのように考えています。

消費税の議論は、今の政治プロセスの中で様々な調整がなされているのではないかと思います。それについて必要に応じて事務局等からも、聞くべきことは聞いて、所得税の議論の中にも反映させていくものがあるならば反映させていくということになるかもしれませんが、とりあえずは所得税を独立に議論していくことができるのではないかと考えています。

○記者

会長の論点例も拝見して、最後にどのような社会のあり方を念頭に置くべきか、今後の税制を含めた諸制度を考えていくに当たり、注目すべき変化は何かというときの期間は、議論の中を拝見すると、これまでの25年間の変化を踏まえた議論を基にしているため、今後25年先を考えたものと理解して良いのでしょうか。

○中里会長

梅澤特別委員はそのようなことをおっしゃっていました。そのような考えは当然出てくるとは思いますが、とりあえず今まで行ってきたことはこれまでの25年間にどのよ

うな変化が起こってきたかということでした、過去を知って、将来のことを推し図っていく。古きを温めて云々というものでしょうか。そのようなこともあるのではないかと思いますから、25年先まで果たして読めるかどうかは多分に自信がないのですが、なぜ過去を振り返るかと言えば、これからの将来をしっかりとしたものにしていくために過去を振り返るわけです。したがって、将来のことも当然考えるということです。

○記者

特に期間は、今後何年先というものはないですか。

○中里会長

将来予測がそんなに簡単にできるとも思っていないから、それはなかなか難しいです。ただし、今、過去を整理して、将来のことを考えるということは当たり前のことですから、将来のことについては、とりあえず今までの過去を整理して、このような改革が必要であるなというものを打ち出したら、あとはアドホックに微調整をするということです。一つの原則を立てて、それでそのまま行くというようには、なかなかいかない変化の激しい時代が来ていますから、そこは柔軟に考えていくということが、一番常識的なラインではないかと思っています。

○記者

ありがとうございます。

○中里会長

どうもお世話になりました。

ありがとうございました。

[閉会]